



上向台小だより

7月号

西東京市立上向台小学校

令和7年7月1日

<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-kamimukoudai>

「人にやさしさ 自分につよさ 生き抜くかしこさ」を体現する児童の育成
～ キャリア・パスポート、個人面談、通知表(あゆみ)を通して ～

教務主任

1学期も残り1か月となりました。1年生にとっては初めての小学校生活、2年生から6年生は一つ学年が上がり、新たな気持ちでスタートした1学期。「漢字をしっかり覚えたい。」、「友達と仲良く楽しく過ごしたい。」、「下級生が困っていたら優しく教えてあげたい。」など、一人一人が4月に立てためあては十分に達成できているでしょうか。

本校では、毎学期、キャリア・パスポートを活用し、児童自身が学期ごとのめあての設定と振り返りを行っています。また、保護者の皆様にもお子様の自己実現に向けて協力していただけるように、毎学期キャリア・パスポートを御家庭に持ち帰り、保護者の皆様に御確認いただいております。

キャリア・パスポートは、令和2年度から全面実施された学習指導要領において、キャリア教育をより充実させるためのツールとして導入されました。学習指導要領では、キャリア教育の充実を図ることについて、第1章総則において「児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。」と明示されています。

従来からキャリア教育は行われてきましたが、これまで以上にキャリア教育を学校教育全体で行うことという前提の下、自らのキャリアやこれからの学びや生き方を見通し、これまでの活動を振り返るなど、教育活動全体の取組をキャリア形成につなげていくための中核的な時間として、特別活動が位置付けられました。そのため、学習指導要領では、特別活動の内容として「一人一人のキャリア形成と自己実現」が設けられました。児童・生徒の学習活動等の振り返りの記録を、学年単位や校種単位で終わらず、小学校から中学校へ、そして高等学校へと継続的に蓄積し、より効果的に児童のキャリア形成を図っていくためのものがキャリア・パスポートです。

本校では、学校教育目標を受け、キャリア教育で目指す児童像を「正解のない社会を生き抜いていく児童」としています。そして、その実現に向けて、次のように、低・中・高学年における重点目標を設定しています。

低学年	自分の好きなこと、得意なこと、できることを増やし、様々な活動への興味・関心を高めながら意欲と自信をもって活動できるようにすることができる。
中学年	友達のよさを認め、協力して活動する中で、自分の持ち味や役割が自覚できるようにすることができる。
高学年	苦手なことや初めて挑戦することに失敗を恐れずに取り組み、そのことが集団の中で役立つ喜びや自分への自信につながるようにすることができる。

この重点目標に向けて一人一人の児童が日々自己実現を図れるように、本校では、特別活動の時間を要としながら各教科、特別の教科道徳において育てたい力を定め、系統的、計画的にキャリア教育の充実を図っています。

また、今月から始まる個人面談や9月末にお渡しする通知表(あゆみ)では、お子様の日頃の学習状況や生活状況、友人関係などについて保護者の皆様にお伝えします。

ぜひ、その内容とキャリア・パスポートでのお子様の振り返りを、御家庭でお子様とともに話していただければと思います。そうすることで、学校と御家庭が同じ認識の下、連携してお子様の次の自己実現を支えていけるのではないかと考えます。「自分では気付かなかったけれど、1学期の間にこんなことができるようになったんだな。これからも、もっと頑張ろう。」、「自分の苦手なところが分かったから、e ライブラリで復習してできるようになりたいな。」など、自分以外の視点が入ることで、今の自分を認め、より良く生きようとする動機付けにしてほしいと願っています。

キャリア・パスポートや個人面談、通知表(あゆみ)を基に、児童自身がよりよい変化を起こそうと、自分で課題を設定して振り返り、責任をもって行動する力を高めていくこと、それこそが、本校の学校教育目標「人にやさしさ 自分につよさ 生き抜くかしこさ」を体現する児童の育成に繋がっていくと考えています。